

## 雲仙岳の火山活動解説資料（平成 31 年 2 月）

福岡管区气象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はありませんが、2010 年頃から普賢岳から平成新山直下の深さ 1 ~ 2 km を震源とする火山性地震が時々発生していますので、今後の火山活動に留意してください。  
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### 活動概況

- ・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2 - ）

白色の噴気が最高で噴気孔上 100m（1 月：20m）まで上がりました。

- ・地震や微動の発生状況（図 2 - 、図 3）

火山性地震の月回数は 15 回（1 月：25 回）と少ない状態で経過しました。このうち震源が求まった火山性地震は 10 回で、震源は主に普賢岳から平成新山直下の深さ 0 km 付近と深さ 1 ~ 2 km に分布しました。

2010 年頃から普賢岳から平成新山直下の深さ 1 ~ 2 km を震源とする火山性地震が時々発生しています。

火山性微動は 2006 年 11 月以降、観測されていません。

- ・地殻変動の状況（図 4、図 5）

GNSS 連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められませんでした。



図 1 雲仙岳 平成新山の状況（2 月 17 日、野岳監視カメラによる）

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（[https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 31 年 3 月分）は平成 31 年 4 月 8 日に発表する予定です。この資料は気象庁のほか、国土地理院、九州地方整備局雲仙復興事務所（長崎県経由）、九州大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。

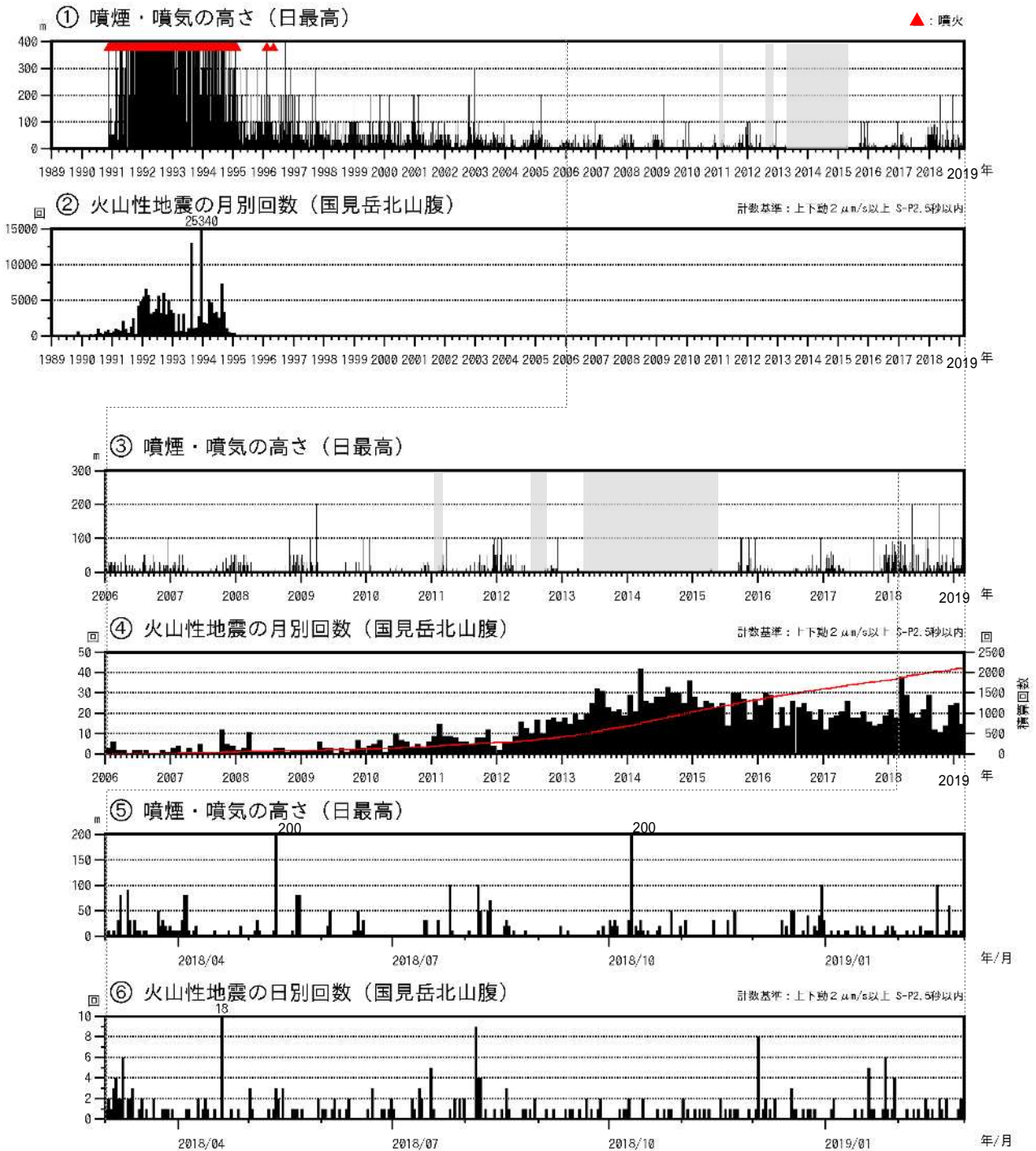


図 2 雲仙岳 火山活動経過図（1989 年 1 月～2019 年 2 月）

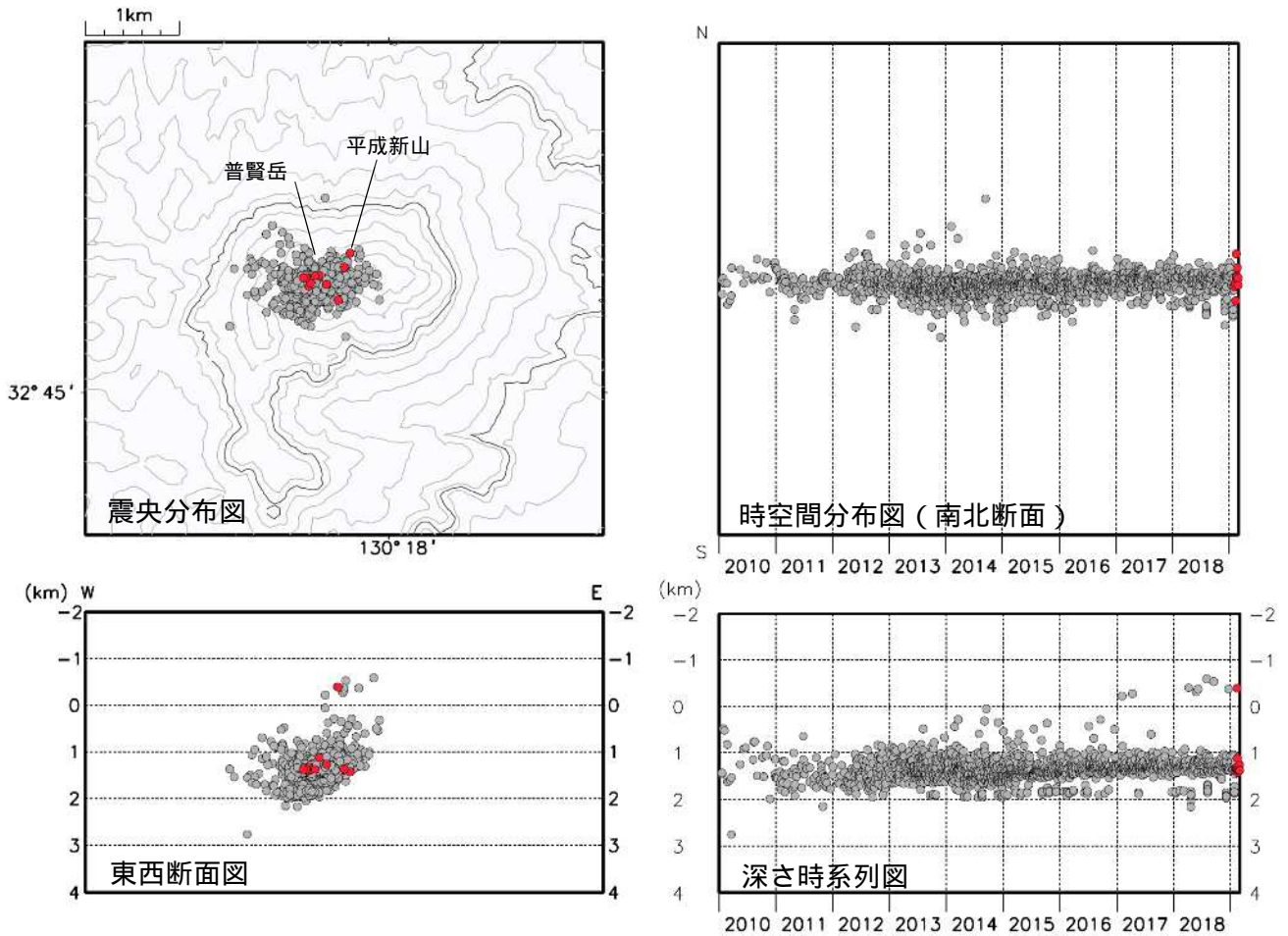
< 2 月の状況 >

- ・白色の噴気が最高で噴気孔上 100m（1 月：20m）まで上がりました。
- ・火山性地震の月回数は 15 回（1 月：25 回）と少ない状態で経過しました。
- ・2010 年頃から普賢岳から平成新山直下の深さ 1～2 km を震源とする火山性地震が時々発生しています。

火山性地震の回数については、2012 年 8 月 31 日までは矢岳南西山腹の計数基準（上下動 5  $\mu\text{m/s}$  以上）で計数しています。

灰色部分は監視カメラの障害による欠測を示しています。

の赤線は地震回数の積算を示しています。



: 2019年2月の震源  
 : 2010年1月～2019年1月の震源

図3-1 雲仙岳 震源分布図(普賢岳・平成新山付近の地震)(2010年1月～2019年2月)

< 2月の状況 >

震源が求まった火山性地震は10回で、震源は主に普賢岳から平成新山直下の深さ0km付近と深さ1～2kmに分布しました。

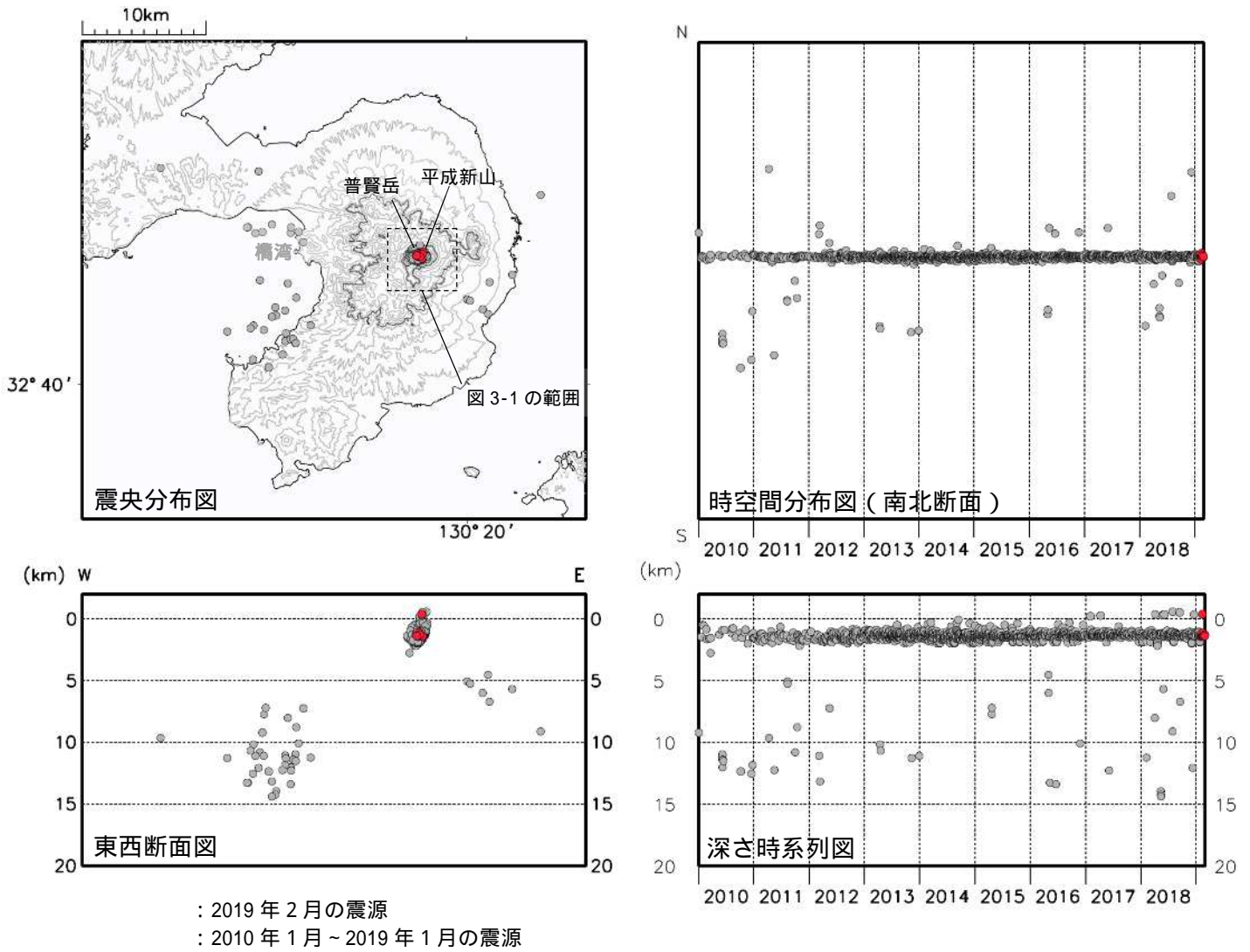


図 3-2 雲仙岳 震源分布図（広域）（2010 年 1 月～2019 年 2 月）

< 2 月の状況 >

橘湾付近に求まる震源はありませんでした。

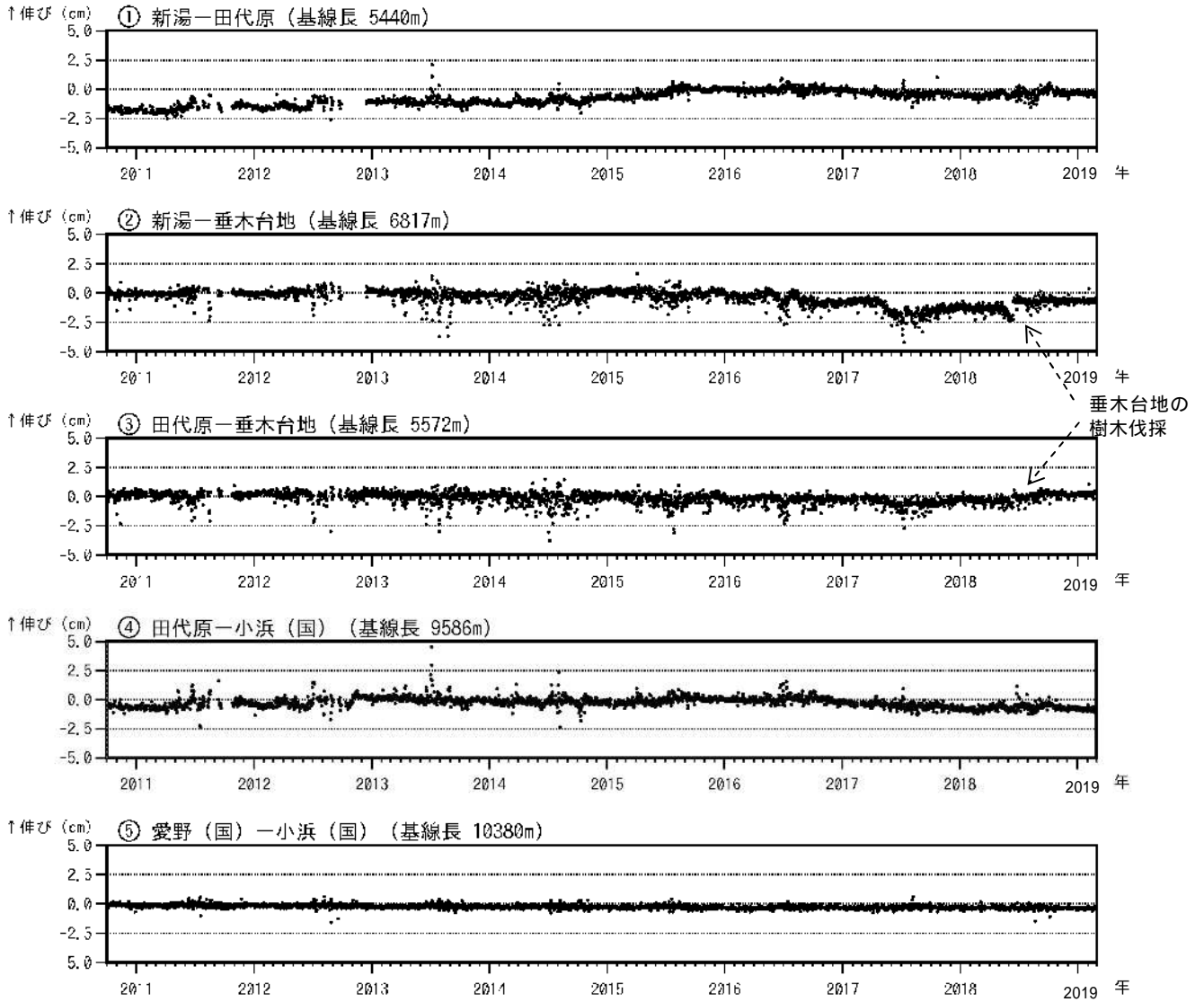


図4 雲仙岳 GNSS連続観測による基線長変化(2010年10月~2019年2月)

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められませんでした。

これらの基線は図5の ~ に対応しています。

基線については、国土地理院の解析結果(F3解及びR3解)を使用しています。

基線の空白部分は欠測を示しています。

2016年1月以降のデータについては、解析方法を変更しています。

2016年4月16日以降の基線長は、平成28年(2016年)熊本地震の影響による変動が大きかったため、この地震に伴うステップを補正しています。

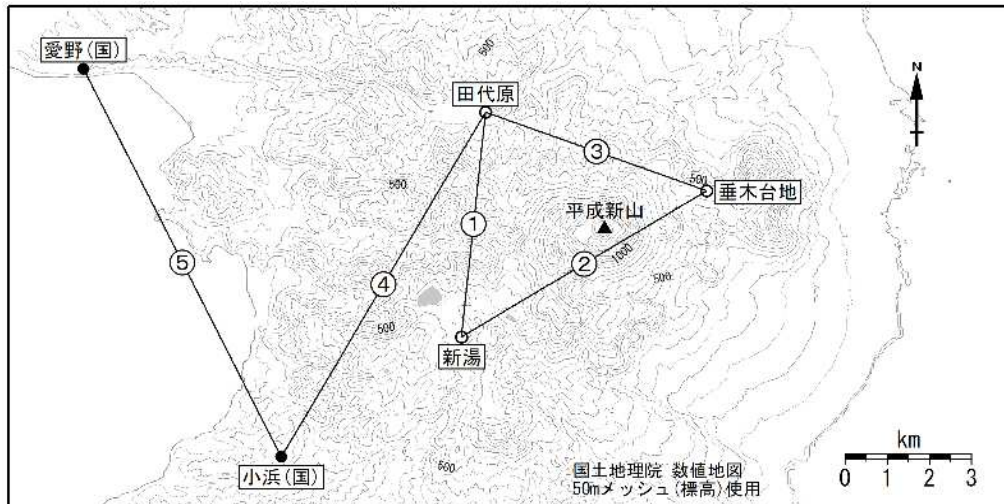


図5 雲仙岳 GNSS連続観測点と基線番号

小さな白丸( )は気象庁、小さな黒丸( )は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国): 国土地理院

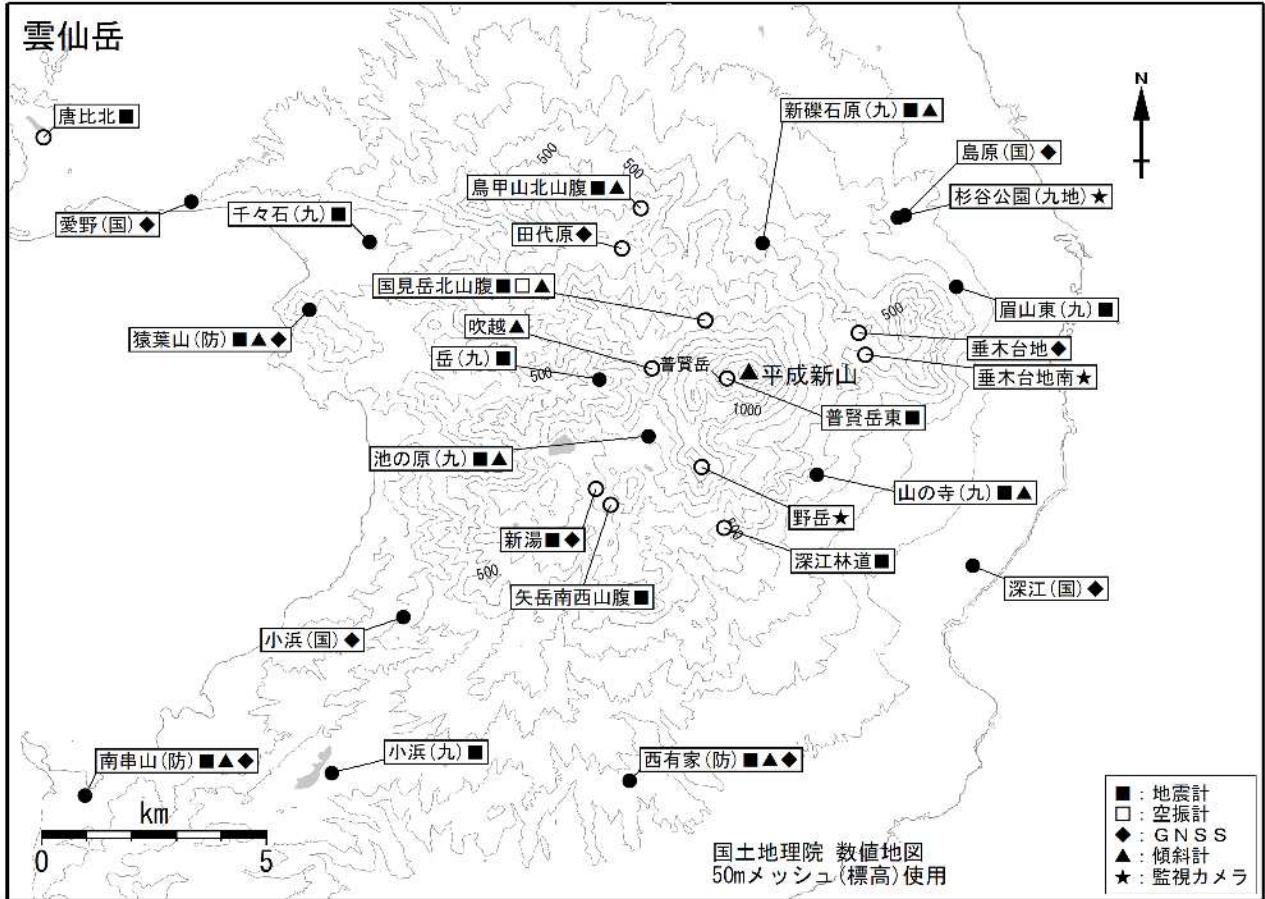


図6 雲仙岳 観測点配置図

小さな白丸( )は気象庁、小さな黒丸( )は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国): 国土地理院、(九地): 九州地方整備局、(九): 九州大学、(防): 防災科学技術研究所